

令和5年度第1回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和5年4月21日（金）午後2時から午後4時10分まで
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室A・B
出席者 辻委員、能勢委員、市川委員、池谷委員、中野委員、西畑委員、松田委員、和久井委員、事務局
傍聴者 なし

1 令和6年度提案型協働事業スケジュール

令和6年度の提案型協働事業のスケジュールについて、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員 長〉：昨年度からの変更はあるか。
- 〈事務局〉：協働コーディネーターからの意見・助言等が加わった。
- 〈委員 員〉：どういった方が協働コーディネートを担うのか。
- 〈事務局〉：協議中である。
- 〈委員 員〉：市の職員か。
- 〈事務局〉：外部の方を予定している。
- 〈委員 員〉：行政提案型の提案があがらなかったのは、市側からそもそも提案がなかったのか、市側の提案に対して一緒にやっという団体が見つからなかったのか、どちらか。
- 〈事務局〉：市側から、こういうことをやってみたいという意見や相談もあったが、正式な提案までには至らなかった。先ほどは触れなかったが、初の試みとして、行政職員と団体が一堂に会しての協働の研修を実施した。そういった試みをしているが、今回の提案には結びつかなかった。
- 〈委員 員〉：過去にはどうだったのか。
- 〈事務局〉：過去には、市民活動センター委託に向けての行政提案型、着地型観光の協働事業などがある。
- 〈委員 員〉：新規提案が出ないことについて事務局としてはどのように考えているか。一番大きな課題はなにか。
- 〈事務局〉：コロナ禍で、行政職員の業務が煩雑になっているということ。行政との協働を希望する団体が望むような担当課は業務が多忙であることも原因のひとつと考える。事務局としては、今後も普及啓発に努め、研修等も行っていく。
- 〈委員 員〉：協働事業というシステムはこれからまちづくりをしていく上ではすごく重要な取り組みだと思う。現実には、担当課の仕事が増えてしまうという感覚があると感じる。自分の課の課題を解決する手段として協働でやっていくことが望ましい、優先順位として上の方にあげるべきという意識を、市役所の職員が持てるようになればよいと思う。

〈委員〉：市民の側から行政が今何に取り組んでいるのかというのが見えにくい。「こういうことで困っています。」と行政側から手を挙げてもらえると助かる。市の職員の負担が増えるのはよくわかるので、協働事業を成功させた際のインセンティブ、評価があるとよい。仕組みづくりとして取り組むといいと思う。

〈委員長〉：若手の職員から出してもらうのはどうか。

〈事務局〉：若手に研修に出席してもらうなど取り組んでいる。

2 令和4年度市民活動センター利用状況、事業実施報告

3 令和5年度市民活動センター事業計画

令和4年度の市民活動センターの利用団体数、利用人数、相談件数、実施事業について及び令和5年度の市民活動センターの事業計画について、事務局から説明した。

【委員からの意見・質問等】

〈委員〉：利用者へのアンケート調査は毎年行っているのか。

〈事務局〉：はい。コロナが始まってすぐに、団体状況の把握と、どのようなサポートが必要なのかを、市民活動センターが毎年調査している。

〈委員〉：課題のところで、協働のコーディネーターができる人材育成とあるが、今期の事業計画にも入っているのか。

〈事務局〉：市民活動センターのセンタースタッフに向けて、専門相談に対応できるようなプログラムを行っているという報告を受けている。

〈委員〉：日常業務の中で行うのか。

〈事務局〉：委託業務の中で行っている。

〈委員〉：それに付随して、単年度契約となっているが、雇用が安定せず人が育たないと思うので、将来的に協働コーディネーターを育てていきたいのであれば、人材育成についても考えてほしい。

〈事務局〉：単年度契約については、市民活動センターがこういった意見を持っているということで、本市の契約の所管課の方に、長期継続契約が可能なのか確認をとったが、市民活動センターの契約は該当しないとの返答があった。しかし、検討の余地がありそうなので、引き続き検討していきたい。

〈委員〉：中学生のボランティア体験ではなく、小学生を対象としたボランティア活動・体験の計画があるといっていたが、ユースボランティアは実施せずに、替わるものとして、小学生を対象としたボランティア活動を行うのか。

〈事務局〉：小学生や保護者を対象に、市民活動センターで、団体が出展をし、団体の活動を披露できるような場を作り、アピールしてもらう。

〈委員〉：対象としては、若い世代。30代・40代向けに、アピールするのか。

〈事務局〉：小学生が来るというのはひとつあるが、保護者をターゲットとしている。もうひとつは、市民活動に触れたことのない世代にアピールしたい狙いがある。

- 〈委員〉：センターの利用者としての意見だが、自動販売機を市民活動センターに設置してほしい。
- 〈事務局〉：引き続き検討していきたい。
- 〈委員〉：防災のことで、障がいのあるお子さんを預かる中で、一般の方と同じ空間に避難することが難しいお子さんの避難訓練も考えたい。
- 〈事務局〉：毎回、防災のテーマが変わるので、御意見を担当に伝える。
- 〈委員〉：ひらつな祭に防災の一環として、数年前から平塚市聴覚障害者協会の代表の方がつながりを作っておきたいと参加してくれている。災害があった時に、周りに危険を知らせる笛を吹けばいいという話が出たが、本人たちは笛の音が聞こえないので、音が鳴っているかわからない、鳴るように調整することも難しいなどの課題が出た。一緒に話してみないとわからないことがあるので、一回で終わらずに、普段からつながりを作っておくことが有効だと思う。
- 〈事務局〉：災害弱者のテーマを必ず取り上げるという約束はできないが、検討してもらえるように運営主体に話をする。

4 令和5年度平塚市市民活動推進補助金審査結果

市民活動推進補助金審査会で審査された入門コース1件、発展コース4件について、事務局が結果を報告した。

5 令和4年度平塚市協働のまちづくり基金及び寄附状況報告

平塚市協働のまちづくり基金の報告及び令和4年度の寄附状況について、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員〉：最初の基金はどこから拠出しているのか。
- 〈事務局〉：原資は平塚市が2,000万出している。歳入よりも、歳出額が多くなっているのが現状。

6 平塚市みんなのまちづくり事例表彰について

令和4年度及び今後の事例表彰制度について、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員〉：いろいろな活動があることに驚いた。それぞれ考えて、地域に則した活動を行っていることに感心したが、活動を知らない市民が多くいるということは残念。もう少しPRできたらよい。また、公民館などには配架しているのか。
- 〈事務局〉：配架している。
- 〈委員〉：アフターコロナで何か活動を始めたいという人が増えている中で、まちづくり事例を参考にしてほしい。中学生のボランティアが減っているという話があったが、一度原点に立ち返って、同じことを始めてみるということも大事だと思う。

〈事務局〉：関連した話だと、公立保育園の高校生ボランティアも復活したので、検討していきたい。

7 その他

特になし

閉会